くすりと健康のはなし

# 薬包紙

第79回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
ぎふ薬事情報センター委員
安田　浩二

## インフルエンザの正しい知識を身につけよう！

寒さも厳しくなり、今年もインフルエンザが猛威を振るう季節となりました。

インフルエンザはウイルス感染症の一種で、一般の風邪（感冒）とは異なります。市販の解熱鎮痛薬ではウイルスの増殖を抑える効果はありませんので、症状（突然の38℃以上の発熱、全身の痛み、倦怠感など）があれば早めに医療機関を受診しましょう。

インフルエンザウイルスには主に2つの感染経路があります。感染者のくしゃみや咳によってウイルスが空気中に撒き散らされ、その空気を吸うことで感染する「飛沫感染」と、感染者が使用した電話やドアノブ、食器、交通機関のつり革などにウイルスが付着して、それを触った方に感染する「接触感染」です。手洗い、うがい、マスクの着用は、身近でできる最も効果的な感染予防対策です。

今年も既にワクチンの接種を受けた方は多いのではないでしょうか。インフルエンザウイルスには様々なタイプがあり、毎年、世界保健機関（WHO）の予測情報を受けてワクチンのタイプが決定されます。流行するタイプは毎年異なりますので、予測が外れる年もありますが、外れても50～60％の予防効果があり、例え感染しても症状が軽く済みます。ワクチンの効果は2週間程度で現れ、約5ヵ月間持続しますので、まだ接種されていない方は最寄りの医療機関へお問い合わせのうえ、早めの接種をお勧めします。

インフルエンザにかかってしまった場合は？病院では、内服薬、吸入薬、症状により注射薬が処方されます。最近は1回のみで治療が可能な吸入薬や内服薬が主流です。薬は患者さんの年齢や症状などを判断して処方されますので、診察時にご相談下さい。

なお、中学生の不幸な転落死の事故から、2007年以降10代での使用が差し控えられてきた「タミフル」ですが、その後の研究や調査会の報告を受け、今年の8月に使用制限が解除されました。しかし、解除されても異常行動が無くなるわけではありません。薬の服用や種類にかかわらず、インフルエンザにかかった方には家族や周りの方々も注意を払ってあげて頂きたいと思います。